

AさせたいならBと言え

突然ですが…、次の4コマ漫画ならぬ4コマスライドを見てタイトル(題)を付けてください。



どんなタイトルを思い付かれましたか？シンプルに「あいさつ」、教訓を含んで「あいさつはキャッチボール」など、答えは一つではなく多様に出てきそうです。これは、3年生以上を対象に、実際の指導で活用した資料です。(低学年には、「4コマめの校長先生は、心の中でどんなことを思ったのでしょうか？」と問いました。) あいさつの指導をする際、「あいさつをしましょう。」と言っても、子ども達の心には響きません。子ども達が「はい！」と返事をしたから指導完了と思っていたら、子どもを見ていない自己満足の強い教師です。『あいさつをさせなければ…』正論だけではなく、相手に響くための工夫をするのが、私達教師の腕の見せ所(技術)です。

おじいちゃんの対応

ネットニュースを見ていたら、次のようなコラムを見つけました。(記憶が定かではないので文脈を整えております。)

題「子どもが学校に行きたくないと言ったら…」

ある日の朝、息子が「学校に行きたくない」と泣き始めました。(どうしたものか…)(学校で何かあったのかしら?)と気を揉む私。その時は、その場にいたおじいちゃんは、息子に何の言葉もかけませんでした。でも…

夕方、おじいちゃんは息子に新しい靴を買ってきてくれました。そして、息子は次の日、泣くことなく、元気に家を出て行ったのであります。おじいちゃん、ありがとう。

物でつったわけではないのでしょう。「子どもは学校に行かないといけなんだよ。」と正論を言うわけでもなく、黙って知恵を絞るおじいちゃん。(孫は、新しい靴があれば、それを学校に履いていきたくなるだろう。)と思ったのでしょうか。「楽しい子育てはないけれど、楽しい子育てはあるよ。」(11月20日村P研究大会で講演に来られる福留健一先生の言葉)子育てには「ひと手間」が必要なようです。

耳にたこができるほど

古き良き時代の教えがたくさん残る椎葉村。家庭教育(躾)においても然り、4月に椎葉に来て、久しぶりに懐かしい光景をたくさん目にしました。それは、あいさつをしない我が子に「あいさつせんか!」と小突く親の姿。絶滅危惧種に指定したほど、平地(都会)では見られなくなった光景です。

小さい頃よく背を丸めていた寒がりの私は、歩く時も座る時も食べる時も四六時中、母から「しせいっ!!」と声をかけられました。おかげで、今、寒がりは変わりませんが、姿勢が丸まってきたら、自分で(しせいっ!!)と律することができるようになりました。子育ては工夫が必要と前述しましたが、(幼い頃は特に)大切なことはあれこれ言わずに「シンプルに繰り返すこと」も必要なことだと思います。

あいさつの意義・効果

昨年の学校評価、今年の学校運営協議会でも話題となったのが「あいさつ」。「やる子はやるが、やらない子が増えてきているのではないか。元気がないのではないか。」という御意見です。納得です。これは椎葉小に限ったことではありません。聡明な大人達が「あいさつ運動」の旗印を掲げてがんばっていますが、「百言って一進む」のが子ども達、今後も地道な努力が求められると思われます。子どもより手が掛かるのは、実は「大人の変容」。多様な価値観が存在する現代ですが、あいさつの価値は再構築を図っていきたく強く願っています。

〈あいさつで育てられること〉

○相手の存在を気にかける意識、相手を尊重する態度

○コミュニケーションを円滑にするための礼儀作法

○前向きに生きる力(奮起する心、積極性、笑顔、自信)等

〈あいさつの効果〉

○相手に受容してもらっている、相手とつながっている

○自分も相手も気分がよくなる

○上記により仕事や付き合いの潤滑油になる 等

意義・効果を理解すると、あいさつの仕方も変わってきます。